



酒 川 玲 子

(社)日本図書館協会事務局長

近畿病院図書室協議会創立20周年に際し心からお祝い申し上げます。

貴協議会が1974年に、「司書としての資質向上と病院図書室の充実をめざして」設立されて以来、文献の相互貸借、研修、機関紙の発行等着実に成果を上げ、発展を遂げられておられることに深い敬意を表します。

近年の医療技術・医療機器の急速な進歩は、それを支える情報収集の重要性を一層大きなものとしてきていると思います。また当然のことながら、情報の量も飛躍的に増えています。こうした中で病院図書室の果たす役割も一段と大きくなっていると思われま

す。図書館界では今、ネットワークの形成が急がれており、多くの大学図書館や専門図書館ではILLサービス、学内LANへのとりくみが進みつつあります。また公立図書館でも都道府県立図書館を中心としたネットワークを構築しようと努めています。このような時に病院図書室グループの方々が、早くから類縁団体とも広く手を結び、情報の収集・提供に努めておられることは、その先見性とい

実践力といい、おおいに見習うべきことと思います。今日の図書館サービスは、もはや一館のみですべてを解決することは恐らく不可能になってきています。さまざまな館種をこえた広い繋がり

りません。

社会での高齢化が進むなかで、公立図書館では高齢者の図書館利用について、新しい対応が求められていますし、図書館利用にさまざまな障害を持つ人々へのサービスも、まだまだ充実させてゆかなければなりません。このような状況のなかで、病院図書室が専門図書館として蓄積されたノウハウを公立図書館が学びとる、あるいは援助をしていただくということもこれからは必要になってくると思われま

す。貴協議会がすでに築きあげられた豊かな実践の数々を、これからはさらに他の館種の図書館へも広げていただくことで、日本の図書館全体の大きな前進になるのではないのでしょうか。

あわせて、私ども図書館に働く者の専門性を確立し、その役割を明確にして行くためには「研修」が大変に重要です。特に規模の小さい図書室での研修の制度化は難しいものがあると思いますので、協議会という立場からそれをサポートしていただきたいと考えま

す。20周年を迎えられるこの機会に、発足当初の原点を再確認されるとともに、内部の充実

はもとより外へ向かっての発言と行動を一層強められ、さらなる飛躍を遂げられることを期待して止みません。

おめでとうございました。